

東北地区研究会報告

佐藤直由（山形大学）

日 時：1996年6月22日13時30分より

会 場：東北大学片平キャンパス・大学院情報科学研究科会議室

参加者：12名

三浦俊二氏（東北福祉大学）

「中山間地域における高齢化と地域資源のあり方について

---白神山地周辺地域を例として」

五十鈴川寛氏（「いろりのある集会所 田楽庵」主宰）

「借金棒引き事件その後のむら---村山市大久保---

三浦会員には、世界遺産（核心地域と緩衝地域からなる）として登録された白神山地の周辺地域（青森県と秋田県にまたがる2市6町4村を周辺地域とする）における地域生活の現状と中山間地域としての地域的課題について報告をしていただいた。三浦報告によれば、白神山地周辺地域は地理的、交通的制約によって生活上の利便性は限定されていること、青森県側と秋田県側では農業生産構造の違いがあるものの人口の減少、高齢化水準の上昇という共通の現状にあること、したがって定住促進などの地域振興をはかるための生産基盤の整備と同時に生活環境施設の整備という課題に対する施策が早急に必要とされていること、それらは中山間地域に共通の課題でもあること、しかし、それらが内側からの要求として提起されても、地理的条件や財政的脆弱さといった制約条件が作用するだけではなく、世界遺産としての自然環境保護・保全という外側からの圧力という軋轢の中に地域的課題がはまりこんでいるということであった。また、三浦氏

は、周辺地域の住民の意識と自然保護・保全を主張する人々との意識のずれを感じるとしつつ、地域振興計画や福祉施策などの問題点を具体的に取り上げ、地域的資源の有効利用と自然環境の保護・保全とのバランスをいかにとらえるかという問題や、周辺地域自治体の広域的な連携による新しい地域機能の創造の必要性という問題について述べられた。報告後、農家の労働力や若年者の動向、山林原野の利用形態、内なる要求と外からの圧力への行政の対応、地域住民における地域的課題や自然保護への取り組みの状況などをめぐって質疑が行われた。

第2の報告の五十鈴川氏は会員になってはおられないが、東北地区会員との親交があり、また、山形県における農業農村振興に寄与されているとともに農業担い手の集まりどころでもある出入り自由の「田楽庵」を主宰されていることもあって、今回ご報告をお願いした。五十鈴川氏の報告は、氏が在住する山形県村山市の大久保地区（旧村）の戦前から現代にいたる農村史とも言えるものであった。村山市大久保周辺地域は地形的に干ばつと洪水による被害を受けやすく、戦前期昭和初期にはそれが経済恐慌とも重なり、戦闘的な農民運動が「借金棒引き事件」などとして展開され、また、農村更生運動や青年教育にも村として熱心に取り組みが行われた。そうした背景もあって、大久保地区周辺地域は戦後しばらくは革新系勢力の基盤として村長・村議・市長選挙、射撃場基地反対闘争などと積極的に関わってきたが、水害対策、農業基盤整備、農業村落振興対策、道路・下水道などの生活環境整備といった事業を進展させるにあたり（あるいは進展するに伴い）、革新勢力は影を薄め、総保守化ともいえるような事態を歩んできていることを指摘された。そうした中で、五十鈴川氏は農業農村をめぐる情報交換の場として「田楽庵」を設け、農業を語り、教育を語ることによって組織としてではなく参集した一人一人の個人としてのアクションのきっかけづくりをしていることを紹介され、「担い手育成とプライベートサポート」というユニークな活動も示された。報告後、農民運動の思想的系譜や政治的背景、農業生産基盤の整備過程、現状における農業・農家の担い手・後継者問題などについて質疑が行われた。